

平成 26 年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

障害者総合支援法に変わってから 2 年が経過した。平成 26 年度は、グループホームへの一元化、障害程度区分から障害支援区分への変更等総合支援法の中で予定されていたものがいくつかスタートした年であった。又、サービスの利用にあたって必要とされるサービス等利用計画が義務化目前とあってその実施に向けた動きが急激に進められた年でもあった。一方、障がい者権利条約のわが国での批准を受けて、障がい者施策や福祉現場においてその実効性が問われる動きの年でもあった。私ども泉学園においても障害当事者の尊厳や権利について改めて実情を踏まえた議論を進めてきた。

又、利用される方々の高齢化の問題も私どもの各事業において大きな問題となってきている。バリアフリー化や介護保険への移行の問題、通院業務の増加や今利用して頂いている方の先の生活について等しっかり議論し対応をはかっていかなければならないと考える。

障害がある方が暮らしやすい社会は誰にとっても生活しやすい優しい社会であると考えている。縁を頂いて当法人の福祉サービスを利用されることとなった当事者やご家族が、心から安堵され、笑顔溢れる日々を過ごされることを願ってやまない。泉学園でよかったと言って頂けるそんな私どもでありたい。新たな年度もその努力を重ねていきたいと考える。

I. 今年度法人運営の重点に沿って

①福祉サービスの充実と支援者の自己研鑽に向けて

今年度も各事業所それぞれにおいてケース検討や学習会、法人内外の研修の場を設け、職員のスキルアップを図ってきた。法人研修委員会に於いて、従来同様、新採用職員、新任職員、中堅職員それぞれを対象とした研修を実施した。外部講師も好評で新鮮な学びも頂いた。常に職員間における情報交換や研鑽の場を持ち続けることが、今後においても私どものスキルアップの条件と考える。

②今後の法人運営に向けた計画作り

今年度はGHゆたか、ひばりのスプリンクラー設置を岡山市の補助事業として予定どおり実施することができた。又、当年度から始まる泉学園 5 か年計画も策定でき、徐々にその実施に向けていくよう考えている。ハード面においては従来からの要望である、宿泊訓練とショート機能、GH機能を併せ持つ事業の具体化に向け用地取得から取り組んでいきたいと考える。事業所の整備は勿論であるが、運営の難しさを伴う事業だけにソフト面の見通しも整えて行かなければならない。

新会計制度への移行を終えた。仮想プライベートネットワークの設定もされ、業務の効率化に繋がるものと考えている。

泉学園 5 か年計画の策定も実施できた。報酬単価の減額など、次第に厳しくなる経営見通しの中でどう重点化した計画を実行していくか、又、組織や人材といったソフト面の整えも非常に重要と考える現状である。

③人材確保と職員待遇の改善に向けて

新年度に向けた採用試験では、ここ数年同様、応募者が少なく、3 次に渡る募集を行った。今だ職員が足りていない事業もあるが、全体として何とか新年度スタートには間に合うことができた。新採用者の中で新卒者は数名にとどまり、将来が懸念される状況が続いている。新年度は採用戦略を練る部署を設けた。資格取得等に向けた実習生の受け入れを強化する、ボランティアの確保により力を入れる等、障がい者福祉の担い手として、将来の泉学園を想定した採用戦略を立てていく必要がある。

福祉職の賃金が一般に比べて低いと言われている。私ども泉学園としては報酬単価にある現加算制度を利用しながら、平成 21 年度から一定の待遇改善に向けた取り組みを継続してきた。今年度も従来同様に処遇改善加算制度を利用しながら待遇の改善をはかってきた。この 6 月からは新たに設けられた加算区分報酬を財源に充当しながら更に充実を図っていく所存である。今後はこの加算財源を利用しつつ、法人の給与体系の見直しに繋げていきたいものとする。

II. 事業計画の具体的な内容

法人事業計画の策定

- ・ 11 月の理事会でお示ししたとおり当年度から始まる泉学園 5 か年計画を、委員会を中心にまとめ作成した。運営状況を見ながら一つ一つ障害当事者やご家族のニーズ、各事業所の必要性に則って計画的に進めていきたい。

補助事業等による施設改修・車両整備等

- ・ GHゆたかとひばりのスプリンクラー設置～岡山市社会福祉施設等耐震化等整備費補助金を頂いて実施した。補助金額 4,606,000 円(事業規模 14,958,000 円)
- ・ ネイチャーファームのエアコン改修、さくら外壁の一部修繕等計画通り実施
- ・ リフト車の寄付～デイセンターなずなへイオン福祉基金よりリフト車を寄贈

職員研修の実施

- ・ 新任職員研修
平成 27 年 3 月 28 日・・・平成 27 年度新規採用職員を対象として実施。現任研修と法人の沿革、障害者福祉に求められるもの等を学ぶ。
- ・ 初任者研修
平成 26 年 11 月 8 日・・・採用後一年未満の職員を対象として実施。先輩職員からの虐待に繋がる支援及び支援者としての経験談等を学ぶ。
- ・ 中堅職員研修
平成 27 年 2 月 7 日、2 月 15 日・・・役職者及び原則経験 5 年以上中堅職員を対象に 2 回に分けて開催。外部講師の方の福祉実践及びモチベーションに繋がる職場環境等に関する講演を頂いた。又、法人内尊厳と権利推進委員会作成の人権スローガンに関する内容についての説明。
- ・ 現任実務交流研修
法人内各事業所間で相互に派遣し研修を実施した。主に後期に各事業所間で派遣や受け入れなど調整し、何らかの形で全職場が参加した。研修参加者は 16 名。感想を寄せて頂いた。

待遇改善に向けた取組

- ・ 平成 21 年度より補助事業から加算制度に変わった財源ではあるがその加算財源をベースに、独自の財源を上乗せして今年度も実施した。加算の額や対象等は従来どおり。この 5 月までが平成 26 年度事業の対象期間となっている。

事業所責任者会議等の開催

- ・ 理事長を始め各事業所の管理者並びに事務局の参加による法人運営や各事業所間連絡調整の場として今年度も毎月事業所責任者会議を実施した。又、従来からの法人研修委員会や泉だより担当者会議、バザー担当者会議も必要に応じて実施し、新たに「5 か年計画策定委員会」「尊厳と権利推進委員会」を設け、会議を開催、取り組みを進めた。

法人機関誌「泉だより」の発行

・従来どおり年2回発行し、関係機関や地域の方への広報や啓発の機会とした。平成26年9月1日、平成27年2月1日付にて発行。

ホームページも従来どおり。但し、更新が十分に適宜できていないという現状である。

Ⅲ. 法人役員会（理事会、評議員会）の開催 ※は理事会のみ

・理事会・評議員会。

平成26年 5月23日・・・平成25年度決算・事業報告、事業計画の追加等。平成25年度岡山市実地指導監査報告、管理者の変更等

平成26年 7月 4日・・・役員改選

平成26年 11月21日・・・平成26年度一次補正予算、事業現況報告、泉学園経理規程等の策定、運営規程の変更、岡山市実地指導、指導監査報告、GHスプリンクラー入札参加業者の決定等

※平成26年 12月22日・・・GHスプリンクラー入札結果の報告

平成27年 3月13日・・・平成26年度二次補正予算、平成27年度当初予算、事業計画、理事、評議員の一部選任等

平成26年度【泉の園】事業報告

はじめに

7月に管理者の変更があるが、日々の活動については事業計画に沿って大きな変わりはなく取り組むことができた。しかし、開設から24年が経過する泉の園では、利用者の高齢化、重度化が進む状況にある。70歳代の方も2人おられ、命にかかわる状態での入院もあった。食事面においても、今まで大丈夫だった大きさの食べ物が喉につかえるケースが出てきたため、年度途中で全体的な刻み食の見直しを行い、刻みの種類を更に細分化して食事提供を行うようにした。利用者の方の命を預かっているということを強く実感した一年であり、健康面への配慮を十分行っていく必要がある。また、日々の活動や一日の流れを一人ひとりの状態の変化に応じた柔軟な内容となるよう見直しを図っていくとともに、介護のスキルアップやハード面の整備を今後の課題として取り組んでいきたい。

1 利用者状況

障害支援区分	6-32人	5-18人	4-9人	3-1人	平均障害支援区分5.4
在籍数	生活介護-60人	施設入所支援-47人			
平均利用率	生活介護-102.6%	施設入所支援-97.7%	短期入所-47.3%		
平均年齢	生活介護-39.5歳(通所者-26.7歳)	施設入所支援-43歳			

2 支援活動(作業グループ)

コスモス班	(16人)	(ウォーキング、ストレッチ、散策、空き缶回収、ミュージックタイム等) ・ストレッチは個々に合わせたメニューを取り入れて、機能低下防止に努めた。 ・ミュージックタイムは火曜日に音楽療法の講師の方に来ていただき実施した。表情良く楽しんで参加される方が多かった。
リサイクル班	(11人)	(空き缶回収-オハヨー乳業等8ヶ所、空き缶プレス、ミュージックタイム等) ・夏場、冬場は気温の状況に応じて室内作業に変更する等の配慮を行った。 ・火曜日のミュージックタイムを楽しみにして、表情良く参加される方が多かった。
あすなる班	(8人)	(園庭花壇の整備、野菜作り、ホール掃除、散策等) ・室外の活動が多いため、夏場、冬場は気温の状況に応じて配慮を行った。 ・野菜作りは野菜の成長を観察し、収穫、販売まで行い、意欲的な活動になっていた。
手芸班	(17人)	(刺子、プレートビーズ、キャップやボールペンのマッチング、パズル、箱折等) ・複数の作業題材の中から各自がしたい作業を選び取り組んでもらった。文字・絵等を使って内容を説明し、個々の意欲を高め、達成感や成功体験を感じることができるよう支援を行った。それが一人ひとりの自信にも繋がった。
プライド班	(8人)	(ウォーキング、ドライブ、空き缶回収、ミュージックタイム、ストレッチ等) ・午前中は個々に応じた活動、午後は散策、空き缶回収等の活動を行った。活動内容をわかりやすくし、個々のペースに合わせていく等の配慮を行った。

3 自治会活動

代議員会	水曜日(15:30~16:00)一行事の計画、掲示物作成等を行った。
ホームルーム	月曜日午前一代議員が皆の意見を聞き、行事についての連絡、代議員会の報告等を行った。
行事	誕生会(毎月第4水曜日)を企画し、実施した。 その他、パフェ作り(6月)、花火大会(7月)、団子作り(9月)、泉まつりジュース販売(10月)、焼き芋大会(11月)、おしるこ作り(1月)、豆まき(2月)、クッキー作り(3月)等の行事を行った。
当番活動	危険個所の点検、環境美化、電灯のチェック、ペットボトルキャップの回収・納品を行った。
人材育成	代議員会等を通じて、利用者の代表意識が育った。
アンケート	利用者アンケート~暮らしの満足度~を行った(8月)。

4 余暇・文化活動

活動予定作成 月計画・週計画・土・日・祝祭日及び長期特別活動の計画を作成した。

買い物 日曜日に園周辺の徒歩外出、自動車外出(天満屋ハピータウン、イオン岡山店、イトウゴフク、エディオン岡南店、フタバ図書等)を行った。

クラブ 金曜日午後一お茶、絵画、ダンス、ミニ運動会等の活動を行った。

行事 花見・母の日の手紙(4月)、端午の節句(5月)、父の日の手紙・おやつ作り・ボウリング招待(6月)、七夕(7月)、納涼行事・花火大会(8月)、月見団子作り(9月)、ハロウィンパーティー・ゆうあい文化祭発表(10月)、焼き芋大会・収穫祭・浦安小学校作品展(11月)、餅つき大会・年賀状作り・衆議院選挙(12月)、とんど焼き・書き初め・おしるこ作り(1月)、豆まき・チョコレート作り(2月)、ひな祭り・クッキー作り(3月) ※その他カレンダー作り、壁面模様作成等を行った。

ビューティタイム 女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

5 生活支援

基本的な生活習慣の支援―障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座―利用者を対象に、歯磨き(5月)、買い物(8月)、手洗い・風邪予防(10月)の学習会を開いた。
リラクゼーションタイム―ADLの向上や楽しみながら体を動かすことを目的とし、タオルを使用した関節のストレッチや上半身、下半身の運動、ボールを使用したマッサージを月1回実施した。

6 保健・看護

通院件数―750件(昨年736件)、訪問歯科件数―279件(262件)、検便―年3回実施、
健康診断―年2回(7月、1月)実施、インフルエンザワクチン接種―11月(54人)、がん検診(36人)

7 給食委員会

年4回、給食委託業者の栄養士も交えて献立の内容等を検討した。

食事は、普通食に加え、刻み食(一口大・荒刻み・極刻み)、ミキサー食、アレルギー対応食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月・11月・2月に実施した。

8 防災委員会

岡山南消防署立入り検査(11月26日)―指示事項無し。

避難訓練―5月、6月、7月、9月、10月、11月、2月、3月に実施した。

(地震・津波、夜間・夜間想定)の訓練含む)

救急法学習会―心肺蘇生法の学習会を行った。(1月30日、職員15人参加)

9 人権委員会

職員の人権意識のアンケートを4回実施した。各職員の人権に対する意識付けができてきた。また実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで、職員の間での気づきにつながった。

人権擁護に関し、パート職員も参加する学習会を実施した。

利用者からの苦情については、今年度なかった。

10 行事

障害者スポーツ大会、浦安学区盆踊り大会、泉まつり、レクリエーションフェスティバル、クリスマス忘年会、お飾りづくり、社会体験旅行

1.1 施設実習

県下大学9校(昨年7校)、26人(昨年21人)、年間80日(昨年70日)の受け入れを行った。

1.2 短期入所及び日中一時支援

短期入所への利用者数345人(昨年333人)、日中一時支援への利用者数108人(昨年83人)

1.3 ボランティア受け入れ

行事を中心に約80人(昨年85人)、その他、ギターコンサート、作業、ハンドベル演奏のボランティアの方が来てくださった。

1.4 苦情解決

ヒヤリハット 投薬関係9件(昨年5件)、離園及び利用者所在確認ミス16件(昨年12件)、
ふらつきによる転倒11件(昨年3件)、利用者間のトラブル及び粗暴行為4件(昨年10件)
事故 服薬ミス31件(昨年13件)、利用者間のトラブル11件(昨年14件)、転倒28件(昨年13件)、
離園行動9件(昨年10件)、事故怪我による緊急通院6件(昨年6件)
苦情 0件

1.5 研修等

4月 第46回中国地区知的障害関係施設長会
5月 憲法週間「市民の集い」/岡山県知的障害者福祉協会総会/
岡山県手をつなぐ育成会第11回支部長会
6月 中四国地区知的障がい関係職員研究協議会/生涯教育実務研修認定講演会/
会計職員実務研修会/社会保険事務説明会/岡山県相談支援従事者初任者研修
7月 公正採用選考人権啓発推進員研修会/第1回岡山県知的障害者福祉協会調査研究委員会/
県福祉協会サマーセミナー/新会計基準セミナー
8月 岡山県特定給食施設関係研修会/全国健康保険協会岡山県大会
10月 岡山県総合社会福祉大会/パートタイム労働法改正についての研修会/
社会福祉法人会計基準セミナー
11月 リスクマネジメント養成研修会/岡山県サービス管理責任者・児童発達支援管理者研修/
第8回福祉施設のためのリスクマネジメント研修会/岡山県知的障害者福祉協会職員研修会
12月 第1回施設長会/災害福祉支援セミナー/第3回きらっと光る人生を考える研究大会/
介護職員指導技術研修/人権推進委員職員研修会
1月 岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修/給食施設従事者研修会/
いきいき職場づくりセミナー/岡山県福祉施設事業所研究交流セミナー/
第2回個別支援計画作成及び運用に関する研修会/第3回障害者支援施設部会全国大会
2月 人権セミナー
3月 岡山県知的障害者福祉協会総会/集団指導

平成 26 年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

1. はじめに

制度改革は、支援内容を介護サービス包括型とした為、入居者等問題なく移行できた。この事業が訓練等給付に位置付けされた事について、当然のことであるが一人ひとりに相応しい社会自立へのイメージを家族も含めて共有し、地域生活を支えることを強く感じた1年であった。

平成 26 年度入居者の状況は長期の入院、機能の低下等により昨年に引き続き、利用サービスを変えたり、また、長期に自宅に帰宅したり、親御さんが亡くなったり、仕事場が遠くに移転したり、睡眠時間が不規則になったりと夫々個別の問題を抱えながら関係機関の協力もあり 44 名の入居者の地域生活が支えられてきた。土・日曜日等の余暇については、居宅事業者を利用し外出が出来た。しかし、入居者の外出への要望が多くこれからの課題である。

岡山市の実地指導が初めて行われた。全 20 項目の指摘があり、改善を行なった。

2. 具体的支援について(支援方針に添ってのまとめ)

- ① 地域において入居者が共同して日常生活が出来るよう食事の提供、健康相談その他の日常生活上の支援を行う。

【食事の提供】

月曜日～金曜日は、夕食を「ヨシケイ」の食材・献立を利用し、土曜日から日曜日は自由献立を使用。カロリーは夕食は 1000～1200 カロリー前後、朝食については、700～900 カロリーで提供している。祝日・休日の昼食は、基本的には、入居者が近隣の店で自由に購入した。

【健康に関して】

- ・定期通院及び風邪等の対応に関しては、以下の数字のとおりである。
内科—124 件、眼科—24 件、歯科—78 件、精神科—51 件、耳鼻科—8 件、
外科—12 件、整形外科—3 件、皮膚科—8 件
- ・健康診断—15 名他の入居者は日中活動の事業所にて行った。
- ・入院— 2 件(5 カ月、1 週間)、 ・静養—ホームで 2 カ月静養

【その他日常的な相談】

- ・同居者との折り合い、世話人に対する苦情、衣類等の調整、外出時の相談等その都度担当支援員やサービス管理者、管理者が解決していった。
- ・小遣い等金銭に関しては、入居者の希望等により対応した。

- ②入居者が、地域住民として責任と誇りを持って生活するよう支援を行う。

【近隣との付き合い】

- ・地域により町内会に入会しているホームもある。町内の役割については町内会長さん等の理解があり配慮されている。町内の清掃などは、少人数だが住民

の方々の協力があり参加できた。

- ・買い物やゴミ出し等可能な限り、近隣に出ていき地域の中で過ごすよう促した。

③入居者が安心・安全に暮らしを営むよう施設整備や地域社会との調整を図る。

- ・避難訓練 年2回実地。
ひばり・ゆたか・はまの—H26/12/19、H27/3/13・16
福富・ビーネン・青空・泉・みのり—H26/12/17、H27/3/18
- ・スプリンクラー及び自動火災報知機の設置—ひばり、ゆたか
- ・不審者騒ぎの一戸建て女子2名のホーム(GHふーさん)をビーネンに移す。
- ・ハザードマップを各ホームに設置し、避難場所・避難経路の確認を日頃から行った。

④入居者の本人意思の確認、夫々の自己決定、自己選択を尊重する。

- ・余暇の設定においてパンフルート等の居宅事業者の協力を得て行った。
鹿児島、姫路、大阪、福山、日生、岡山市内等移動支援を利用し外出をした。

3. 住居・定員に関して

- ・ホームの統廃合 グループホームふーさんを廃止してグループホーム菜の花に統合。グループホームが12カ所から11カ所になった。
- ・定員の変化 全体の定員44人(変化なし)、
GH菜の花定員2人→4人

4. 行事

- ・花見 4/5(希望者のみ) ・誕生会(各ホームにて誕生時に実地)
- ・忘年会 12/4、12/24

5. 各種手続き支援

- ・健康保険料の減免手続き(6月に13人)、・年金の現状手続き(6月) ・健康診査(6~8月に15名受診)、障害者総合支援法におけるサービス量等の手続き、地域生活支援事業のサービス量等の手続き、成年後見制度の手続き、療育手帳再判定の手続き等を行った。

6. 入居者負担額

- ・入居者の負担額は、後半9月~3月まで寒かった事、消費税が8パーセントにより平成25年度にくらべ不足額が出た。不足額が出ている入居者が多くなった。
- ・対策としては、省エネの器具備品を替える等を行った。しかし、消費税10パーセントになった時には5,000円から7,000円の値上げが必要である。

平成 26 年度【ネイチャーファーム】事業報告

1、はじめに

本年度も花、パン部門同様に、消費者に対して安全・安心かつ品質の高い商品を提供し、一般に販売される商品と対等に評価される商品作りに取り組んできた。新しい職員配置により各部門での職員の責任ある持ち場、役割を日々の活動を通して自己覚知する場を提供することで限られた職員配置と勤務時間で工夫し乗り切ることができた。また、会議での次期課題の模索や今年度の活動結果に少なからず反映させることが出来た。また今年度は各職員が積極的に研修に参加する事で、何より利用者に対する支援の見直しにも良い影響が見られ、それぞれの環境の中で生き生きと活動する場面や、就労を通しての生活を支えることが出来た一年であったように感じる。

2、活動目標について

前年度に引き続き利用者一人ひとりの職場として、また一般就労に向けた支援の場として各々が自信と誇りを持ち仕事が出来るとなるような場作り、時には励ましあい一社会人として互いに成長できる環境作りを目指し活動してきた。花工房では職員の引き継ぎと新体制の取り組み、収支の継続的な安定を目指し何とか目標達成に至るも、経験的専門技術の向上や、生産維持に対する職員配置の見直しなど将来を見据えた新たな体制作りが課題となった。またパン工房では利用者や家族とのコミュニケーションを重視して利用者主体の支援を見直し、年間を通して学生や職員などの実習受け入れを行うことで事業所利用での社会貢献が行え職場内にも良い刺激を得た。また収支向上に対する取り組みとしては、新たな商品開発、営業による販促、作業コスト見直しなど年間を通し少しずつではあるが進歩がみられた。反省としては店舗の売上努力が課題となり将来性のある取り組みをもう一度見直す必要を感じている。

3、定員 20名（現在従業員22名） 花6名 パン16名

4、職員配置 7.5 : 1

5、職員構成 管理者1 サービス管理責任者(兼務) 職業指導員3 生活支援員1
事務員1 パート職員4

6、生産活動について

○花部門

利用者状況

現在6名。(うち女性1名)大きな怪我や病気もなく一年を終えることが出来た。現在男性2名よりグループホームへの入居希望が出ており準備頂いている状況である。

運営・経営状況

収支状況は3ヶ月ごとの目標設定により年間目標を上回ることが出来た。課題としては全体で挙げた生産規模維持のための人員配置見直しである。

生産販売状況

- ・花苗 約30種 160,000株 (内45,000株は岡山市との契約)
- ・野菜苗約20種 5,000株

・野菜 玉葱、じゃがいも、さつまいも、夏野菜
販売状況

ハウス直売、委託販売（JA はなやか南）業者、学校納品、バザー販売、請負作業（テーマパーク、ゴルフ場花壇）畑一般開放（いもほり体験）

器具備品

資材置き場のハウス破れを張り替え。自動灌水の部品取替えをしている、今後の課題としては休憩所の老朽化対策。

その他

年2回の慰労会と東京への一泊旅行を実施している。

○パン工房

利用者状況

現在16名。（女性5名）現在短時間契約4名。短時間については健康上の理由や、本人の希望となっている。特に1名においては難病による入退院が見られた以外勤務態度は申し分ない状況。

運営・経営状況

運営会議では収支の状況を見直し、売上や経費のバランス、質を下げない材料費の見直しや商品パフォーマンスなど細部にわたり見直しを行った、その結果売上げ向上や新商品開発に良い影響を得られ、営業もやりやすく幅広い活動ができ支持を得ることが出来た。また、昨年度より取り組んでいた作業衛生においては作業着の導入や徹底した異物対策でクレームがほぼない状況であった。しかし安定した収支の継続にはより一層の努力が必要と感じ、特に常設している店舗や同法人作業所の店舗の売上げが伸び悩んでおり、来期に向けての課題となった。他、工房での実習受け入れ、支援員の研修参加など専門的な支援に対する知識向上にも取り組んでいる。

生産販売状況

製パン、焼き菓子を中心としたメニュー展開で平均600～800個の製造、今年度は焼き菓子の商品開発で安定した売り場の確保も行っている。また行政による5年計画での食品表示規定変更など早めの準備を計画していきたい。

販売状況

工場店舗販売、福富店舗販売（集客ハガキ、ポイントカード使用）各業者卸販売（病院、JA、吉備 SA など）施設関係、学校など（注文販売）セルフ商品委託、ネット販売、移動販売、バザー販売。施設開放（小学生パン作り体験）

クレーム対応

運営状況で触れたように商品へのクレーム（特に体毛や異物）は激減したが表示ラベルや、包装ミス、検品ミスなど季節商品の変わり目にはミスが見られた。

器具備品

工場内空調設備の交換完了。店舗ドア修理。公用車故障による修理（来期も共同募金申請継続）冷蔵庫のガス漏れ修理などを行う。

勤務計画

花工房と平行し勤務計画を月毎に作成、取り掛かりに時間を要し配布が遅れがちである。職員配置での調整もあり連携が必要である。利用者については個別支援計画に沿って個々の能力や出勤状況に合わせた勤務計画を行う。またパン工房では支援職員のローテーション勤務の

確立が行え、バランスの良い業務内容となった、さらには販売職員として新たな販売場所の確立にも参加できている。

防災について

年2回以上の避難訓練の実施、火元責任者による各部屋、設備の点検、日々の防災チェック表記入。

その他

福利厚生について、年2回の慰労会、一日旅行（USJ）利用者会議（自治会活動）など利用者主体の活動を支援。

○営業活動

運営会議での営業計画や、商品企画により時間のある時は進んで営業できた。反省としては契約した卸業者や取引先を定期的に挨拶するなど丁寧に回ることが難しく配達職員にゆだねている為、より一層努力したい。その他優先調達会議、A型事業所会議、セルフ、福祉協会はもとより取引先展示会、勉強会なども引き続き積極的に参加したい。

平成 26 年度【桑野通所事業所】事業報告

〈桑野フレンドリーハウス（生活介護）〉

はじめに

健康や精神面で辛い思いをされた方があった半面、笑顔で取り組まれる姿も印象に残る一年であった。一方利用者を支えておられるご家族に突然の不幸が続き、生活が突然大きく変わり不安な日々を過ごされた方もおられた。利用者やご家族にとって安心感の抱ける支援体制の整備が急がれる。

1. 活動目的

メンバーや職員とのふれ合いを通して笑顔でいられる時間をより多く持つこと、また作業や活動とおして楽しさを感じ頑張る心を培うこと、地域の方々や仲間とのふれ合いの中で大人として成長していくこと、そして心身共に健康で健やかな毎日を送ることを目標とした。

2. 利用者状況について

定員 40 名、契約者 50 名でスタートしたが、女性 1 名が 4 月 11 日をもってグループホーム入居の為に、女性 1 名が医療の必要性によりそれぞれ退所された。また 3 月末で退所された方が 10 月 1 日より復帰され 3 月末では契約者 49 名となった。外科手術を行い入院加療された方が 2 名、摂食障害、水中毒による入院加療された方が 2 名あった。

・開所日数：260 日（内土曜開所 19 日）月平均開所日数：21.7 日

・利用者数：のべ 10,688 名（前年度 11,023 名）年間利用率：103%（前年度 107%）

3. 職員配置について

管理者 1 名（兼務）、副管理者 1 名（支援員に含む）、サービス管理責任者 1 名、支援員 19 名（内パート 4 名）、看護師 1 名、事務員 1 名、運転手 1 名（嘱託）調理員 3 名（兼務）、嘱託医 1 名でスタートした。サービス管理責任者の変更があり、支援員 1 名が産休に入った。3 月末で支援員 18 名となった。配置については 2.5 : 1 とし、常勤換算職員は 17.0 名以上とした。

4. 活動計画について

今年度も昨年度同様基本的に午前中はバイタルチェック後に作業、マッサージ、ストレッチ、歩行や散策を、午後からはリトミック、音楽、カラオケ等の活動やボランティアの方による講座等を行った。また四季折々の行事や一日外出、京都方面への一泊社会体験を行った。一つひとつの活動の中では利用者の笑顔が印象に残る一年であった。

※利用者の障害支援区分（27 年 3 月 31 日現在）：表 1

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	未判定	計
生活介護	16 (-1)	13	12 (+1)	7 (-2)	1			49
就労継続		2	8 (+2)	9	2		2	23
計	16	15	20	16	3	0	2	72

〈桑野ワークプラザ（就労継続支援 B 型）〉

はじめに

工賃向上計画の最終年度となったが、計画に沿った作業収入のアップと工賃支給が達成されなかった。作業題材が取引中止になったこと、商品開発や営業等の努力不足も原因に挙げられる。また国の

優先調達推進法やセルフによる共同受注等の施策が具体的に進展しておらず、今後より一層の事業所努力が求められる。

また屋外での作業が多い中、年々メンバーの高齢化や体力の低下が進み、屋外作業に参加できる方が徐々に少なくなってきたことも今後作業選定をするうえで課題となってきた。

1. 活動目的

作業が中心の日課の中で仲間や職員とのふれ合いに生きがいを感じる方、月々の工賃に生きがいを感じている人など一人ひとりの活動目的は異なる。その違いをしっかりと受け止め日々の支援にあたっていくこと、そして地域の中での活動を通じ社会とのつながりや社会への貢献を実感していくことを目的とした。

2. 利用者状況について

定員 20 名、契約者 21 名でスタートした。9 月 16 日より男性 1 名が、また 12 月 8 日より男性 1 名が新規に契約され 3 月末では 23 名となった。新たなメンバーについては、個々に課題はあるものの事業所での活動が生活の一部になってきたよう感じる。長らく通所できていない方については引き続き家庭訪問を行いながら、泉学園の事業所が連携して少しでも前向きな生活を目指している。利用者の障害支援区分については表 1 のとおりである。

・開所日数：260 日（内土曜開所 19 日）月平均開所日数：21.7 日

・利用者数：のべ 5,075 名（昨年度 4,994 名）年間利用率：97.5%（昨年度 95.1%）

3. 職員配置について

管理者 1 名（兼務）、サービス管理責任者 1 名、支援員 5 名（職業指導員 2 名、生活支援員 2 名、目標工賃達成指導員 1 名、内パート 1 名）、事務員 1 名、調理員 3 名（兼務）とした。職員配置については、基準上の常勤換算職員数 2.4 名（目標工賃達成指導員配置加算算定上は 3 名）に対して年間を通し 4.8 名の配置とした。

4. 活動計画について

作業については段ボールのバリ取り、箸入れ、土の封入、ふれあいセンター屋外管理業務、ふれあいセンター花壇管理業務、食品加工（クッキー製造販売）、出向作業（3 事業所・コーポ清掃を含む）を今年度も引き続き行った。年度末よりサンプルのシールはがしが題材に加わったり、セルフから封筒へのシール張りを受注したが、まだまだ安定した室内作業がないのが実情である。活動については月に一度午後より調理実習、トレッキング（夏場はプール等）、また希望者は講座（お茶、踊り）に参加した。一日社会学習での外出や京都方面へ一泊社会体験を行い作業への活力となった。

〈事業所共通の取り組みについて〉

1. 年間行事について

年間行事については昨年度を踏襲し主だったものとして、5 月：障害者スポーツ大会、6 月：ボウリング招待、7 月：七夕交流会（親子クラブ）、10 月：ふれあいまつり、12 月：クリスマス会、お飾りづくり、2 月：節分交流会（親子クラブ）、3 月：リカイヒロメタインジャー（美作大学）ワークショップ、その他各グループでの社会見学・社会体験等を行った。

2. 土曜開所について

ボウリング、カラオケ、散策、おやつ作り等々内容は昨年度を踏襲し年間 19 日を開所した。

3. 工賃の支給について

ワークプラザについては今年度の目標工賃を一人 17,000 円/月としたが作業収入が伸びず 13,195 円にとどまった。（昨年度 15,599 円）

フレンドリーハウスについては手芸品、軽作業、ペットボトル等の収益を還元し、年間2回（前期が2,000円、後期が3,500円）支給した。（昨年度は前期が2,000円、後期が3,000円）

4. 給食提供について

今年度も魚宗フーズとの業務委託によりサントピアからの給食提供を行った。消費税のアップに伴い今年度より給食費が480円→500円となった。それに伴い利用者負担金を300円→320円に値上げした。

5. 健康管理について

今年度も心身共に課題を抱えられた方がみられた。健康については特にご家庭との連携の中で細かい配慮を行っていききたい。心のケアについても常にご本人の気持ちに寄り添いながら活動を共にしていきたいと思う。怪我や事故についてはヒヤリハット等で環境要因や発生原因を共通認識し未然に防いでいきたい。

6. 利用者の送迎について

送迎のニーズが年々高まっている。できる限りニーズにお応えしようとコース、時間、車輛調整を都度行った。車輛不足と車輛の老朽化が大きな課題となってきた。送迎中に接触事故が2件あった。

7. 地域交流について

昨年度同様百間川クリーン作戦への参加や、地区社協、操明親子クラブや敬老会との交流行事（お飾りづくり、七夕会、節分会）を行なった。また土曜開所等やふれあいまつり、様々な行事へボランティアの方が積極的に参加を頂いた。また年度末には美作大学より「リカイヒロメタインジャー」に来て頂き、一般の方々にも参加を頂いた。

8. 安心、安全な支援を基本にリスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努める 今年度の件数は以下のとおりである。

ヒヤリハット：フレンドリー103件、ワーク21件。事故：フレンドリー5件、ワーク0件。
車輛事故：フレンドリー1件、ワーク1件、職員負傷：フレンドリー1件、苦情：0件。意見：フレンドリー8件、ワーク1件。

9. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

事業所内研修においてはストレッチやメンタルヘルスに関する事、虐待防止に関する事、心肺蘇生に関する事等をテーマとし実施した。出張研修においては昨年度を踏襲した研修会に参加した。日頃の課題解決のために、専門的取り組みを行っている事業所を見学し研修を受けた。出張研修については職員の希望が反映できるシステム作りも今後必要かと思われる。

〈日中一時支援事業（岡山市地域生活支援事業）〉

今年度は契約者2名（昨年度3名）、のべ82名の利用があった。（昨年度55名）契約者数は年々減少しているが、昨年度よりのべ利用者数が増えているのは、同じ方の利用日数が増加したからである。気軽に利用できる日中活動の場としてご希望があれば今後も積極的に受け入れを行っていききたい。

〈今後の課題〉

支援現場においては「生きがいの追求」と「意思決定支援」を日々の活動に絡めていくことがまだまだ浅く直近の課題である。また日々の支援や取り組みがマンネリ化しないよう、折に触れ新鮮な風を吹き込ませていくことも必要だ。次の課題は長らくの課題となっている生活支援の場づくりである。一歩でも進展させたい。

平成 26 年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

今年度、開所 10 周年祝賀行事・地域住民参加型餅つきといった大きな節目ともなる行事を無事終え、事業所は新しい歴史を刻み始めた。ひとつの行事を成し遂げるためには大変な労力を要するが、達成感が自信に繋がり、都度職員は大きく成長しているように思う。また利用者支援に関していえば、ご利用者・ご家族のご苦勞を理解し、ご利用者の気持ちに寄り添った支援にこだわった一年であった。様々な特性をもったご利用者が増える中、職員の知識・利用者理解・温もりのある支援が問われる場面も多かった。十分な支援が出来ていない点を反省し、今後更に皆様に安心して利用頂ける温かい事業所として歩んでいきたいと考える。

《生活介護事業》

今年度は少し職員配置を厚くすることで、個別支援の充実を図った。そして個別支援計画書を整え、ご利用者のニーズに沿った活動内容の工夫を試みた。結果少しずつ成果をあげつつあるが、まだまだ職員の努力が必要な状況である。

1、定員並びに利用状況

○定員:10名 ○契約者数:17名 ○平均利用者数:10.8 ○平均利用率:107.6%

○区分 6→13名、区分 5→2名、区分 4→1名、区分 3→1名 区分平均→5.7

2、職員配置

○変更なし(指定基準に基づいた人員配置 2:1)

3、主な支援内容

○個別活動(AM):アイロンビーズ・ビーズ通し・柔軟体操・外出・他

⇒既存の活動にこだわり過ぎることなく、個別支援計画書に沿った取り組みを強化するために活動内容の充実を図った。少しずつ整いつつあるが、引き続き創意工夫が必要である。

○集団活動(PM):ウォーキング・創作・おやつ作り・レクリエーション・音楽・他

⇒運動不足の解消に向けての取り組みを強化した。ウォーキング時間の確保等、身体を動かす機会は増えつつある。

○入浴支援:事故・怪我に気を付け、安心して楽しく入浴して頂けるように気を付けている。

利用状況⇒○男性 2名(週 2回→1名、週 1回→1名) ○女性 1名(週 1回)

《就労継続支援 B 型》

安定した利用率で推移した年であった。しかし様々な特性を持たれたご利用者が増える中、支援に四苦八苦している状況でもある。作業収入は少しずつ上昇傾向にあるが、利用者工賃の大幅アップには至っていない。

1、定員並びに利用状況:

○定員:30名 ○契約者数:39名 ○平均利用率:109.3%

2、職員配置

○変更なし。

3、主な作業内容

<食品加工> ○収入→2,570,177円、○支出→原材料 911,699円、経費 592,328円、
工賃 529,010円、計 2,033,037円

収入アップを考える時、ザグザグとの取引終了はとても残念な出来事であった。しかし福浜公民館

祭りでは 86,000 円の収入を得られる等、職員の努力が報われる場面もあった。新商品焼きドーナツも好評であり、今後販路拡大が大きな課題である。

<製品加工> ○収入→744,738 円 ○支出→工賃 694,210 円

前期はバリ取り作業のお陰で収益が右肩上がりであったが、後期に入りバリ取り作業が滞り少し収入の伸び悩みが生じてしまった。

<手芸・他> ○収入→521,604 円 ○支出→原材料費 106,851 円、経費 9167 円、
工賃 720,500 円、計 836,518 円

新しく導入した肥料の袋詰め作業は順調に収入に繋がっている。今年度は手芸以外の作業にも前向きに取り組んだ年であった。今後も様々な作業に取り組むことで収入アップを図りたい。

<カフェつみ木>○収入→9,006,119 円 ○支出→原材料費 3,703,605 円、経費 696,803 円、
工賃 1,127,100 円、指導員賃金 3,580,322 円、計 9,107,830 円

利用者 6 名 (10 月より 1 名入院)。ご利用者の接客能力も高まり、動きもスムーズで、皆様の成長ぶりに驚かされる日々である。売上平均 33,000 円/日を目標に取り組んだが、34,000 円/日の売り上げがあり目標は達成できた。固定客も増え収入アップに繋がっている。

4、利用者工賃

<カフェつみ木>

時給：一律 150 円、月平均 14,552 円。次年度はその方のお力に合わせて時給に差をつけるが、全体的には工賃アップを図る予定である。

<食品加工・製品加工・手芸>

時給：平均 54.1 円 (30 円～90 円)、月平均 6,760 円

3 月に出勤率に応じた金額 (最高 1 万円) のボーナスを支給する(ボーナスとしては過去最高金額)。大幅な工賃アップを図るまでの作業収入が得られなかったことが残念である。

《多機能型事業所さくらとして》

<地域との交流>

○内容→地域参加型餅つきを実施・地域向けさくら通信発行(1 回)・地域美化活動 (2 回)・福浜公民館祭りへ参加、等。平成 23 年 1 月実施以降滞っていた地域住民参加型餅つきを実施できたことが何より嬉しい出来事であった。また積極的にご利用者と共に地域に出向くことで、地域の皆様に障がいをお持ちの方々に対する理解を求めた。そして法人内でも課題としてあがっている学生ボランティアの開拓に向けて積極的に動いた年でもあった。

<全体行事>

10 周年記念行事・地域住民参加型餅つき・クリスマス忘年会・成人を祝う会を実施。生活介護・就労継続間の触れ合いもでき、ご利用者はとても楽しそうであった。

<土曜開所>

生活介護→10 名利用。就労継続→平均 23.5 人利用。外出 (社会見学) を中心としながらレクリエーション的内容を取り入れている。

<健康管理> 一年通して大きな事故・怪我なく過ごせた。9 月定期健康診断実施 (29 名) 11 月インフルエンザ予防接種実施 (55 名)。

<送迎サービス> 利用人数→生活介護 16 名、就労継続 14 名利用。年々送迎希望者が増えつつあり、今年度 8 人乗り乗用車を 1 台増やす。また 10 年前購入したリフト車の老朽化に伴い、公益財団法人日本財団福祉車両の助成を受けリフト車を購入する。今後も可能な限り皆様のニーズに応えていき

い。

<ヒヤリハット> 転倒 (11 件)、他傷 (5 件)、所在不明 (4 件)、送迎忘れ等 (10 件)

<事故>

○交通事故 (1 件) →送迎車が横転する大きな事故に遭遇する (同乗しておられたご利用者・運転スタッフは軽傷)

○車両関連 4 件→接触事故(1 件)、物損事故 (3 件)

○誤飲(1 件) ○電気コンロにスイッチが入りポットが焦げる(1 件)

平成 26 年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

1. (はじめに)

サービス等利用計画必須に対する制度上の猶予期間が今年度で終期を迎えた。岡山市では相談支援体制整備の着手に遅れていたが、具体的な対応や方策を検討する等自立支援協議会を通じて官民協働により取り組んだ一年となった。当事業所における相談支援の受付件数は昨年度に比べ 197%の伸び率となり、年齢・障がい種別問わず依頼が殺到する状況になったことから、下半期は全ての方に対応することが難しくなり他事業所を紹介させていただく等の事例が多くなった。支給決定者数に対する相談支援事業所(専門員)の不足が顕在化している状況であるが、今後を見据えた対応を鑑みると喫緊の課題であると感じている。これら計画相談支援に関する課題とともに岡山市では第4期障害福祉計画策定の時期とも重なり、年度当初より従来計画の振り返り及び素案づくりの一員として集中的に関わった。

また、今年度は岡山県障害者相談支援アドバイザー事業(都道府県相談支援体制整備事業)の圏域コーディネーターとして活動し、市内外を問わずこれら体制整備に関する広域支援にも対応した。活動領域が個別～地区～市全域～広域へと多岐にわたる中で、次年度以降の市町における体制整備支援が優先課題であると感じている。

2. (管理運営、相談支援体制の状況)

管理者 1 名(常勤兼務)、相談支援専門員 2 名(専従 1 名、管理者との兼務 1 名)
事務員 2 名(常勤兼務 1 名、常勤専従 1 名)

今年度、岡山市より障害者相談支援事業所サポート事業の委託を受け、相談支援専門員の補助として事務員を 1 名雇用して繁忙の対応とした。

3. (地域的な活動に関する取組みの現状)

○岡山市障害者自立支援協議会

- ・全体会(年 3 回出席)
- ・福祉サービス部会(管理者が部会長、地域課題の整理や調査が役割)毎月開催
- ・南西地域部会の運営(2週間に一度相談支援事業者が集まり、受理ケースの検討共有および日本福祉大学、関西学院大学からスーパーバイザーを招へいしてのSV研修)
- ・障害福祉計画策定WG(年 8 回参加)、および計画相談支援推進WGの委員(毎月開催)

○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

- ・県下市町からの依頼により相談支援体制の整備に関する取組みを実施(別紙実績)

○相談支援専門員の養成および育成

- ・国指導者養成研修への参加(3日間)
- ・岡山県実施の初任者・現任者研修、専門研修等企画運営への協力(年 1 2 日参加)

○県立支援学校

- ・学校評議員(岡山南支援学校)、年 3 回
- ・岡山市南区(南福祉・西福祉管内)後期実施の移行支援会議に向けた調整等
- ・各種講演、ケース会議の開催等

4. (次年度に向けた課題等)

計画相談支援を通じて岡山市内の相談支援に関する状況が変わりつつある。引き続き多くの課題を抱えていくことが予想されるが、法人内の体制(相談支援専門員、認定調査業務等)を整えておく必要があると思われる。それに伴って、サービスの質向上に向けての取り組みや今後のあるべき姿に向けて取り組んでいかなければならないと考える。

5. (利用の状況)

更新日	総件数 (実人数)	性別	
		男	女
H27.3.31	213	129	84

(エリア)

北区	中区	南区	東区	市外
22	11	174	5	3

(受付月)

前年度継続	4月	5月	6月	7月	8月	9月
66	10	9	16	9	5	4
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	21	11	19	16	8	213

(年代)

未就学	就学児	10代	20代	30代	40代	50代	60代	65歳以上
12	32	10	32	43	45	17	13	9

(障害の状況)

身体	知的	精神	重心	身体・知的	身体・精神	知的・精神	発達	難病	高次脳
34	88	27	4	10	4	3	39	3	3

(障害程度区分)

なし	申請中	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
79	9	3	35	28	11	19	30

(相談形態)

基本相談	障害児	計画相談	計画相談 地域移行	計画相談 地域定着	地域移行	地域定着
82	15	108	1	6	-	1

(相談の内容)

福祉サービス利用支援	障害・病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育
184	5	7	8	5
家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動
6	4	5	3	16
権利擁護	苦情	その他		
3	-	1		

※複数掲載事例あり

(支援状況)

強/支援	弱/支援	経過観察	中断	困難	終了
25	135	36	0	6	3

○障害支援区分認定調査(岡山市委託)				○岡山県相談支援アドバイザー事業(岡山県委嘱)		
依頼機関	市内	市外	小計	派遣先	内容等	回数
南区南福祉事務所	59	2	61	県庁	コーディネーター会議	3
南区西福祉事務所	20	2	22	備前県民局	管内市町村担当者向け会議	1
北区北福祉事務所	1	0	1	高梁市役所	新見市、高梁市事業者向け説明会	1
北区中央福祉事務所	1	0	1	岡山市	各事業者向け説明会	8
中区福祉事務所	4	0	4	備前県民局	直Bに関する意見交換会	1
東区福祉事務所	1	0	1	玉野市	協議会全体会へ出席	1
障害福祉課	21	11	32	倉敷市	水島地区相談支援事業者研修	1
健康づくり課	2	0	2		計	16
小計	109	15				
総計		124				

平成 26 年度【デイセンターなすな】事業報告

平成 26 年度は玉柏事業所に新しい利用者の方を 4 名迎えてスタートした。他事業所の事情で一時的に利用された方や利用日が増えた方、年度途中から利用して下さっている方があったものの、入所のため契約終了となった方、入浴の関係で他事業所の利用日が増えた方等も居られ利用率は 6～7 割と前年度と変わらず。中途の利用希望の方も積極的に受け入れてきているが、入浴、送迎の可否は大きい。人材や車両設備等の確保充実を図って打開したい。年度中に玉柏において支援者の育休取得や退職等が重なり、人材確保も困難さを極め支援現場に負担を強いてしまったことは特筆したい。瀬戸との連携のもと、出向というような形で協力体制をとってしのいだ。

《生活介護事業》

1. 平成 26 年度事業所の概要 (H27 年 3/末現在)

◇ 定員 45 名 年間平均利用率～66%

(契約者数 59 名～新規契約 8 名、契約解除 2 名) ※契約解除事由～他施設入所 2 名

◇ 契約者の障害程度区分 (平均障害程度区分～5.8)

区分 6 (52 名) 区分 5 (3 名) 区分 4 (2 名) 区分 3 (2 名)

◇ 契約者の住所地

岡山市 (42 名) 赤磐市 (13 名) 瀬戸内市 (3 名) 備前市 (1 名)

◇ 職員状況

管理者 1 名、サービス管理責任者 1 名、生活支援員 20 名 (常勤 15 名、非常勤 5 名)

看護師 4 名 (常勤 1 名、非常勤 3 名)、作業療法士 (非常勤 2 名) 配膳職員等 (非常勤 2 名)

嘱託医 2 名、事務員 2 名 (常勤 1 名、非常勤 1 名)、運転手 (玉柏非常勤 1 名)

2. 実施事業の内容

① 健康管理

平成 26 年度は看護師も 4 名体制 (玉柏 2 名、瀬戸 2 名、医療的ケアの必要な利用者の方が多い日は瀬戸より 1 名玉柏出向) とすることができ、健康面、医療面においても必要なケアが行えるようになった。しかし連絡ミスや思い込みといったことで利用者の方に負担をおかけしてしまったことなどもあり、医療面というよりも『報・連・相』が徹底できていなかったこと、個々利用者の方の障がい特性をしっかりと把握できていなかったことが問題であり、課題である。各委員会、領域を中心に研鑽や実地訓練等を積み重ねていきたい。

② 日中活動支援

◇ 活動内容としては音楽やゲーム、トランポリンなどのレクリエーションが好まれる傾向にあり全体として数多く取り組んでいるが、作業療法士の指導を仰ぎつつ機能訓練や身体の活動といった障がい特性に即した活動も多くなっている。また行事の為の調理を始め、季節ごとの園芸や散策、それぞれの季節に合わせた歳時行事に取り組む等、利用者の方にわくわくドキドキするような体験や経験をより多く積んで頂こうと日々切磋琢磨している。

また、今年度も数多くのボランティアの方において頂き、一緒に歌い踊ったり見たり聴いたり、楽器の音色を楽しむなど、多種多様な文化的活動を行うことができていると思われる。

◇ 昨年度の反省を踏まえ、外に出る機会を多く持つように心掛けた。花粉症や PM2.5 などの影響もあ

り気軽にとまではいかなかったものの、旅行や外食、日用品の買い出しや調理材料の調達、ペットボトルキャップを業者に持って行く日設けるなどして外出の機会をより多く持つようにした。

- ◇ 利用者の方の人数や場所にもよるが、全体活動やグループ活動、少人数による活動、個別活動など様々な形態をとっている。支援者数に合わせて頂かなければならない（少人数が合同になるなど）こともあったりしたので大変申し訳なく思う。

③ 入浴

入浴については玉柏 30 名、瀬戸 9 名の方が入浴されている。玉柏においては新たなご希望の方には、今現在入浴利用されている方が休まれた折に入浴可能とお伝えして対応させて頂いている。瀬戸でもご希望の声があったが、館の水道光熱費の関係で入浴日を増やすことができなかったが、年度末に市側との交渉により午後のみであるが 2 日間増を確約することができた（半年間で見直しあり）ご希望に少しでもお応えしていけるものと思う。

④ 送迎

リフト車 6 台、車椅子対応乗用車 1 台、ミニバン 3 台の計 10 台（この内 3 台はリース車）を使用し 1 年間で 52 名の方の送迎（送迎、送りのみ、迎えのみ）を実施。昨年末にイオン福祉基金よりリフト車 1 台を寄贈頂き、ルートや状況等も鑑みながら徐々にご希望にお応えして行っている。ご家族送迎の他、有償運送を利用されている方も居られ潜在的なご希望はまだ多いと思われる。車両増車も視野にご本人の状態や家庭状況、利用日数等合せて検討していく必要がある。

⑤ 行事等

年間の行事計画を立てて実施してきたが、一日旅行についてはここ 2 年ほど足並みが揃わないことを反省している。期間や気候に縛られず、年間通して個々の方に合うと思われる“旅行”を楽しめたら良いのではないかと思う。夏祭りやクリスマス会、運動会、新成人の祝い等の行事を行っていく中で、ボランティアの方の協力やご家族の応援を頂き本当に有難く、その思いを大事に良い関係を育んでいけたらと切に思う。

⑥ 土曜開所

年間通して毎月第 2、第 4 土曜日に開所した。一日平均 14 名、延べ 329 名の方が利用されている。徐々に決まった方が利用されるようになってきて定着してきていること、家庭の事情等で利用される方も居られることもあり継続実施したい。土曜開所日の出勤職員は平日に公休日設けているが、日によっては支援現場に響くこともあるので、それぞれの状況に合わせて調整している。

3. ボランティアの方・実習生等の受け入れ

◇ ボランティアさん

前記した通り、今年度も多くのボランティアの方々にお世話になった。開所以来 9 年間、毎週来て下さっている方、定期的に連絡を下さってコンサートを開いて下さる方、呼びかけに気軽においで下さる方等々、本当に有難く思う。これからも気持ちの良い関係作りに職員一同努めていきたい。

◇ 各支援学校実習生

下記の通り、各支援学校からの実習生（高校 2, 3 年生）を受け入れた。

◇ その他

今年度は他事業所（旭川通園センターさんより2名の方1日、倉敷中野福祉会さんより2名の方各5日間）からの現場研修を受け入れたり、法人内現場研修（他事業所へ、他事業所から）にも取り組んだ。

4. ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

◇ 例年の傾向であるが、年度当初は利用者の方、職員共々新しく来られた方が多いこともあってヒヤリ・ハットの件数も多いが、徐々に減少する傾向にはある。確認や連携ミス等十分注意していれば防げたことも多いと思われるので、注意を促していきたい。

ヒヤリ・ハット、事故件数～79件（服薬に関すること、誤嚥の恐れ、気管カニューレ抜管の恐れ、転倒しかけ、接触、外傷、車両関係等）

◇ 苦情としては2件あったが、苦情として対応したものは1件である。

① ご家庭との文書や請求等のやり取りにおいて、受取が出来ていなかったことが2度続いた。

ご自宅を訪問して繰り返さないことをお約束し謝罪する。（以後は無い）

当利用者の方に限らず、受取忘れや記入漏れ、連絡漏れ等もあるはずと全体で再確認、忘れ物を無くす（減らす）ことの周知を図った。

② 個人情報の漏れがあった。1件に限らず職員の進退問題やプライバシーに関する事なども漏れ出ていることがあり、会議毎に個人情報に関して現状における問題点や課題、改善すべき点などを全体で話し合い探り現在も継続している。

次年度は事業所のリスクとして防災・リスク委員会で取り組みしっかりと改善へ繋げていきたい。

【瀬戸障がい者デイセンターなずな・日中一時支援事業】

平成26年度末現在、契約者の方は11名。主に夏・冬・春の支援学校の長期休暇中のご利用となっている。担当者を中心に、1日1～3名の方を受け入れている。日課や日中活動についてもこれまで通り瀬戸の生活介護事業の利用者の方と一緒に活動し過ごされている。

卒業後に生活介護を利用して頂ける方々としても積極的に受け入れ支援していきたい。

【瀬戸障がい者相談支援事業所】

計画相談が全国的に進められている中であって岡山市の進捗率はワースト3に入る状態であったこともあり、年度当初から計画相談に追われた。年度末現在、契約件数は55名となっており、基本相談から計画相談に移行した方も居られる。現状としてモニタリングへの取り組みが十分にできていないことが課題であり、本来の相談支援の在り方としては全く不十分と言わざるを得ない。大きな課題、解決すべき課題として捉えている。

継続の基本相談としては、就労相談、生活相談、家事相談、サービス利用相談、進路相談等が挙げられ、今後も引き続き相談支援に当たる予定である。

平成 26 年度【ワークショップちどり】事業報告

はじめに

家庭的で明るい雰囲気によって、日々充実した日中を過している利用者さんの姿を感じる一方、一人ひとりの生活の場面では様々な困難を抱えて居られる方も少なくないと思われる。高齢化も現実のものとなり、通い難くなり日常生活にも困難な姿が見られてきている。泉学園の理念である「一人ひとりみんな主人公」を大切に、人権を尊重し、ニーズに沿った支援に努めてきた。また安心してちどりを利用して頂けるように、課題解決に向けた研修に参加し、情報を共有する中で共通意識をもって支援できるよう努めた。また職員間の情報・意見交換の場である会議、ミーティングにもできる限り全員参加で行なえた。今後も地域との繋がりと福祉を大切にしながら、利用者の方々の声を見逃さない職員集団でありたいと思う。

1. この一年の利用者の状況について

- ・ 定員 20 名(契約者 21 名) ・ 日々利用率 83%
- ・ 利用者の障害別 身体手帳 3 名 療育手帳 18 名 重複 2 名
- ・ 利用者地域別 岡山～19 名 倉敷～1 名 笠岡～1 名
- ・ 利用者の年代別 20 代：7 名 30 代：6 名 40 代：1 名 50 代：5 名 60 代：2 名
- ・ 介護保険と併用で 2 名の方が引続き利用

2. 職員の配置状況

管理者(常勤・サービス管理責任者兼務) 1 名
目標工賃達成指導員(常勤) 1 名 生活支援員(常勤) 3 名
職業指導員(パート) 3 名 事務員(兼務) 1 名 で臨んだ。

3. 活動(支援)計画、内容について

- ・ 作業支援
利用者の方にもいろいろな作業へ挑戦していただくことで作業の幅が広がっている。
- ・ 作業内容
紙製品作業
名刺作業へ専属の職員を配置することで、質の向上と生産力のアップに努めたが、顧客のデータ等の整理・新製品の開発・販路拡大等の問題点が課題として残り、売り上げの増加に繋がらなかった。
下請け作業
ドックフード作業・弁当配達作業に加えて、ネイチャーファームの協力で農園作業も始まり、玉ねぎ作業への挑戦も出来ている。弁当配達作業については、27 年 5 月にて終了予定である。
その他、委託販売
店販売については、委託している施設と連絡を取り、店内の商品の整理を行い、売り上げに繋がった。ボランティアの方から頂いた野菜販売も行った。
- ・ 作業収支状況
名刺・はがき等紙製品 1,174,533 円
下請け作業 1,903,888 円
その他の作業 776,619 円
委託販売 488,388 円

合計 4,343,428 円

- ・ 材料費及び経費

材料費、雑費 1,021,337 円

工賃 2,943,840 円

利用者支給額 最低支給額 8,000 円/月 最高支給額 32,000 円/月

- ・ 主な行事

4月 お花見 6月 招待ボウリング 7月 なずなどの交流会 10月 泊を伴う社会体験
12月 忘年会 1月 餅つき 3月 日帰り温泉体験
土曜日開所、毎月第3土曜日に実施、社会参加を目的としたプランを実施した。

- ・ 健康や安全への取組み

利用者の服薬管理を始めとして健康状態の把握に努め、毎日通所時にバイタルチェックを行った。また病気怪我等の健康管理にも努めた。ご家族との連携も図った。
協力医療機関を通して健康診断の支援等を実施した。

- ・ 安全

避難マップの見直し・避難訓練の強化が課題として残った。

- ・ 実習生・ボランティア等の受け入れ

介護等実習生：7人の実習生を受け入れた。ボランティア登録はして頂いたが実際にボランティアとして来て頂くことには繋がっていない。

ボランティア：紙漉き、下請け作業、クラブ活動(絵手紙・スポーツ)に定期的にボランティアに来て頂いている。出店等のお手伝いにボランティアサークルひまわりに協力頂いている。

4、その他の取組

- ・ 工賃アップへの取組

工賃向上3ヶ年計画最終年であった。自社製品である紙製品の質の向上と生産力アップに努めた。目標に掲げた金額には届いていないが、一定の増額ははかれた。下請け作業では玉ねぎ作業に加えて、従来からのドックフード作業の受託量の増に力を入れ、工賃アップにつながる取組の強化を図った。

- ・ 地域交流

公民館へ牛乳パックの回収ボックスを設置、クラブ活動前の地域の掃除を利用者の方と共に
行い積極的に地域への働きかけを行った。

- ・ 職員会議・朝礼終礼・研修

会議・ミーティングの必要性を全職員が意識し有意義な話し合いとなるよう心がけ、利用者支援につなげてきた。また法人内研修や外部研修へ参加することで自己研鑽の機会を持つよう努めた。

5、今後に向けて

- ・ 支援者として常に自らの支援姿勢を研鑽し、あわせてお互いに指摘しあえる職員集団となるよう努める。
- ・ 職員のスキルアップを図る為の研修・学習会などを通して、支援者としての専門性を高めるよう努める。

平成 26 年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

1. はじめに

今年度は、支援員 10 名体制で安定した事業運営が出来た。現状のニーズを維持しながら、新規のニーズも若干増やし対応することが出来た。

特に、居宅介護事業では新規の利用者が 3 人増えた事などもあり、収入は昨年度より 9 % 程度増となった。

移動支援事業では、年度末の 2・3 月に登録ヘルパー 1 名が体調不良で休みとなり支援に支障をきたしたが、収入は昨年度とほぼ同じ。事業所全体としては安定した運営により今年度は初めて黒字となった。しかし、来年度へ向けての課題は多い。

事業としては、居宅介護事業の行動援護や地域生活支援事業の移動支援といった外出支援の依頼が従来通り多く、また居宅介護事業では家事援助の契約者が 2 人増えた。各支援員の協力の基に障がいを持たれた方の社会参加や地域社会での生活維持に微力ながら貢献できたのではないかと思う。福祉有償運送事業については、利用の問い合わせが従来通り数多く寄せられたが、現在利用されている方々のニーズも多く、運転手や車両台数に限りがあることで対応が難しく、1 人の新規契約は行ったが、他事業所を紹介したりお断りするケースが多かった。

今後も職員、登録ヘルパーの協力の基に障がいを持たれた方やその家族が地域で安心して生活して行く上で支えとなる事業所である様に努めていきたい。

2. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通り。

(1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
25 名	2, 830 時間	0 件	0 件

* 昨年度支援時間 2, 499. 75 時間

(2) 移動支援事業

契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
42 名	3, 471 時間	0 件	0 件

* 昨年度支援時間 3, 496 時間

(3) いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
13 名	38 時間	0 件	0 件

* 昨年度支援時間 36. 5 時間

(4) 福祉有償運送事業

利用者登録人数	利用件数	運転者数(延べ)	総走行距離	苦情件数	事故件数
68人	837件	837人	8,924キロ	0件	0件

*昨年度利用件数 840件 *昨年度走行距離 8,698キロ

3. 職員の状況について

常勤職員3名・パート1名・登録ヘルパー6名の支援員10名にて対応した。
今年度後半の2・3月と2ヶ月間、登録ヘルパー1名が体調不良により休みとなった。
それに伴い移動支援のサービス提供に支障をきたしたが、他の登録ヘルパーの協力があり、大きな問題にはならなかった。

4. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

ヒヤリハットが3件あった。その内容は、

- (1) 移動支援にて電車移動の際に利用者の財布を車内に置き忘れをしたが、JR西日本へ届け出後に戻ってきた。
- (2) 行動援護にて歩道を歩行中につまづきにより転倒して、右足膝に軽い擦り傷を負った。
通院が必要な怪我では無くカットバンを貼り処置した。
- (3) 福祉有償運送の際、降車後の歩行中に縁石につまづき転倒して、右腕肘に軽い擦り傷を負った。
通院が必要な怪我では無くカットバンを貼り処置した。
上記3件ともご家族へ謝罪と今後の対策を説明している。